

褒める大切と再認識

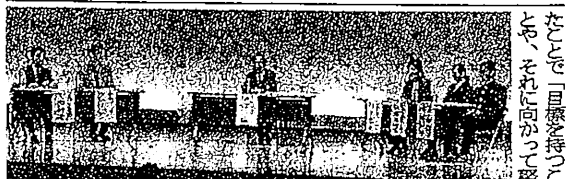
錦町で全国子どもをほめよう研究大会

第10回全国子どもをほめよう研究大会が十一日、錦町広瀬の錦町のフォーラムで開かれた。町内各近郊をはじめ、町外福岡、大分を真などから約三百人が参加。フォーラムは分科会、講演などを連日して供養褒めることの大切さを再認識した。



主催は全国子どもをほめよう研究会と錦町子どもフォーラム実行委員会、同町も町教育委員会、NPO法人全国生涯学習まちづくり協会が主催、県や県教育委員会、県PTA連合会などが後援した。同大会は昨年、大分県前津江村で開かれた。今年、「町児童生徒表彰条例」を制定して十五周年になる錦町が記念事業として全国大会を引き受け、「褒めてみよう子ども」の心、語り合おう「褒めよう」をテーマに「全国子どもをほめよう研究大会」をテーマに錦町児童生徒表彰条例で表彰を受ける6年生

方についても触れ、「心づくすの大切さを再認識」をテーマに、町内各近郊をはじめ、町外福岡、大分を真などから約三百人が参加。フォーラムは分科会、講演などを連日して供養褒めることの大切さを再認識した。



力することの大切さを再認識した」と述べた。広島文教女子大学三年生の松本真由美さんは錦町の子どもをほめよう研究大会をもちろ、自信を持って自分の性格を紹介できるようになったことを話した。

さらに、母親代表の村上恵子さんは「大人同士でも褒め合うことで、互いの良い点を認識できる」とアピール。福岡さんは「大人がしっかりしていない子供を褒めたい」と話した。

「小さな一歩が、大きく地域を変えよう」をテーマに意見を交わしたフォーラム

「褒める大切と再認識」をテーマに、町内各近郊をはじめ、町外福岡、大分を真などから約三百人が参加。フォーラムは分科会、講演などを連日して供養褒めることの大切さを再認識した。